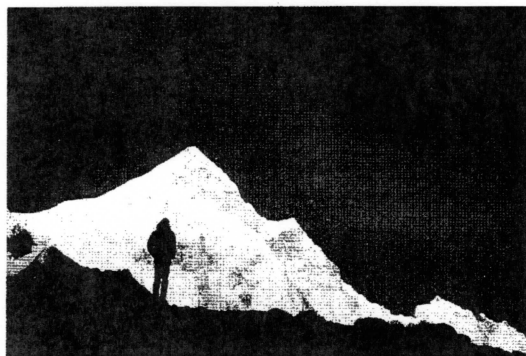


8月21日 C3停滞
 8月22日 C3-山頂(7611m)-C4(7200m)
 8月23日 初登ルート下降-C5(5750m)
 8月24日 C5-BC
 8月25日 BC撤収-フンザ
 8月28日 イスラマバード着
 9月1日 日本着



岩稜には過去の登山隊が設置した FIX ロープが多少残っていた。

7月21日、イスラマバードより陸路でフンザへ向け出発。夏季のみ通行可能なバブサル峠経由でチラスに入り、そこからはKKH(カラコルムハイウェイ)をフンザへと北上していく。近年、フンザは外国人よりもパキスタン人観光客で賑やかでびっくりする。

トレッキング

7月25日、KKH沿いのパサー村からジープに乗り換え、Borith Lakeを越えて終点のZeroPointよりトレッキングを開始する。初日の歩きはLuzhdur(ラズダール)まで3時間半ほどだが、白く綺麗なパサー氷河を横断する。ポーターたちの巧みなルートファインディングで、迷路を抜けた左岸のモレーンに広がる草原でキャンプをする。

翌26日は、尾根上のPatundas(パトゥンダス)まで急登を登る。視界が一気に広がり目の前には目指すシスパーレが見え、足元には花の絨毯が広がっていた。パサー氷河左岸にある4000mのBCまで緩い下り道をたどる。この日も約3時間半ほどの歩きで昼にはBC到着。パサーピークを目指すパキスタンの登山隊が既に入山していた。

高度順化・下降路の偵察

7月28日、高度順化と下降路・北東壁の偵察を兼ねて初登ルートへ向かう。BCからパサー氷河を横断して右岸に渡り、東支稜に取り付く。氷河はまさに迷路のようで、右往左往しながら安全なルートを探すも、クレバスをジャンプでやり過ごす場所も多かった。東支稜に取り付くタイミングも難しく、氷河と東支稜側壁のコンタクトラインを行ったり来たりしながら進み、西面の雪壁から稜線に上がる。翌日はさらに上部5600mまで稜線をたどり、下降路の状況を把握し一気にBCへ戻った。稜線の

パサーピーク

BCで2日間休養した後、パサーピークへ向けて出発。パサーピーク(7478m)はシスパーレの北西8km程に位置し、下部アイスフォールさえ越えてしまえば技術的困難は少なく登れる。今回は高度順化とシスパーレ北西稜の偵察のために登山許可を取っていた。パキスタンのパサー隊は下部アイスフォールの状態が悪く、ルート工作も進まず早々にBCを撤収し下山していった。我々は遠回りではあるが、パサー氷河の右岸からシスパーレ北面のプラトーに登り、大横断してパサーピークへ向かう安全なルートから進んだ。残念ながら悪天候に阻まれ、登頂することはできなかったが、6750m(6400mで2泊)まで高度順化を行いBCへと下山した。次の好天期でシスパーレに挑戦かと思われたが、数日間の悪天予報が続いた為、フンザに下山し3日間の休養をとる。

シスパーレ1回目の挑戦

BCに戻っても、相変わらず曇りや雪の天気が続く。天気予報とのにらみ合いが続く。今年の夏はパキスタン全土で雨が多く、山岳地域は土砂崩れも頻発していたらしい。パサーでの高度順化から9日後、しびれを切らして、多少の悪天なら下部では影響少ないと判断し、曇り空のなかBCを出発したが、午後から降雪でホワイトアウトになり、進むべき方向もよく分からなくなってしまった。結局、5000mで一晩待機したが、積雪も40~50cm程あ